

# **RouteMagic**

## ***RouteMagic Server***

**IP8800 プラグイン**

---

**ユーザーズガイド**

---

**- Version 3.0 -**

# はじめに

---

## 本書の目的

---

RouteMagic Server（以下 RMS と記述）IP8800 プラグインは、従来 Cisco 製品のみに提供されていた RMS の機能性を NEC の L3 スイッチ IP8800 シリーズに対しても提供します。本書は、RMS IP8800 プラグインに関して、その機能と利用方法を記述しています。RMS の機能詳細ならびに操作方法に関しては、下記の関連ドキュメントをご参照ください。

## プラグインの動作環境

---

- RMS : Version3.0 以上
- RMC : Version2.1 以上のソフトウェアおよび IP8800 用カスタムフィルタ/スクリプトを搭載  
※旧リリースのソフトウェアを搭載した RMC をご利用の場合は、RMC ソフトウェアのアップグレードが必要となりますのでご注意ください。

## 本書の対象読者

---

本書は、次の方を対象に記述されています。

- RMS のインストールとシステムの立ち上げに責任をお持ちの方（root ユーザ）
- RMS の機能と操作に関する知識をお持ちで、IP8800 対応機能をご利用になる方

## 関連ドキュメント

---

RMS には本書の他に、次のドキュメントが用意されています。

- **RouteMagic Server ユーザーズ・ガイド –管理者編–**  
RMS システム、及び RMS を利用するネットワーク管理システムの運用に責任を持つ方を対象として、RMS を利用する際に必要な初期設定と管理作業を記述しています。
- **RouteMagic Server ユーザーズ・ガイド –オペレータ編–**  
ネットワーク管理・監視の担当者として RMS を利用する方を対象として、RMS の機能とその操作に関して記述しています。
- **RouteMagic Server インストール・ガイド**  
Linux に関する基礎知識をお持ちの方を対象として、Linux サーバ上への RMS のインストールと初期設定作業に関して記述しています。旧バージョンの RMS からの移行に関して本ドキュメントをご参照下さい。
- **RouteMagic for SNMP Manager ガイド**  
SNMP マネージャと RMS を連携させる機能について記述しています。
- **RouteMagic Server リリースノート**  
最新リリースにおいて追加/変更された機能および利用上の注意事項などを記述しています。
- **RouteMagic Server メンテナンス・ガイド**  
RMS システムを導入されたユーザに必要な日常のメンテナンス作業を記述しています。

# 目次

---

<b>1. IP8800 プラグインの機能</b>	<b>1</b>
1.1 IP8800 プラグイン対応機種	1
1.2 IP8800 プラグインの機能	1
1.3 IP8800 プラグイン Version3.0 における制限事項	2
<b>2. IP8800 プラグインのインストール／アップグレード</b>	<b>3</b>
2.1 IP8800 プラグインのインストール／アップグレード	3
2.2 インストールの確認	4
<b>3. 監視対象装置と RMC のセットアップ</b>	<b>5</b>
3.1 IP8800 装置のセットアップ	5
3.2 RMC のセットアップ	5

# 1. IP8800 プラグインの機能

RMS IP8800 プラグインは、日本電気株式会社の L3 スイッチ IP8800/700 シリーズを RMS 対応製品として管理する機能を提供します。RMS の基本的な機能と操作は、従来の RMS 対応製品（Cisco 社「ルータ」「スイッチ」「IOS スイッチ」）と同様ですので、「RMS ユーザーズガイド」の記述をご参照ください。

IP8800 プラグインを利用される場合は、別途、プラグイン用パッケージのインストールが必要とされます。後述のインストール手順に従って、インストール作業を行ってください。

## 1.1 IP8800 プラグイン対応機種

RMS IP8800 プラグイン Version3.0 は、日本電気株式会社の L3 スイッチ IP8800/700 シリーズの Software R3.2 以上に対応しています。

## 1.2 IP8800 プラグインの機能

IP8800 対応のパッケージをインストールすることにより、以下の機能が提供されます。

### 1. 装置種別 “IP8800” の追加

NEC 社製品の装置の種別として、“IP8800” が追加されます。

### 2. 装置の自動検出と登録

装置からの情報取得により装置の種別を判断し、自動登録する機能を提供します。この機能を利用するためには、あらかじめ RMC の設定を行っておってください。RMC の設定に関しては、「3. 監視対象装置と RMC のセットアップ」をご参照ください。



監視対象装置の一括登録を行う場合、「装置登録ファイル」内の装置の種別には、“IP8800” を記述してください。

### 3. イベントログの取得と日本語解説メッセージの表示

IP8800 のイベントログの内容、およびそれに対する日本語解説メッセージを RMS の Web 上で閲覧することが可能です。

また、RMS 側でログの重要度に応じて、インシデント発行を処理することが可能です。

### 4. ヘルスチェック機能

以下のコマンドに対応するヘルスチェック機能により、設定情報とルーティングテーブルの変更履歴を参照することができます。

```
show environment, show startup-config, show running-config  
show gated-config, show ip router config, show ip route
```

## 5. 定石コマンドの提供

サンプル定石コマンドを RMS CD-ROM 中の下記の場所にて提供しています。

¥rmsdocs¥plugin¥samplecmd¥ip8800.txt

- ◆ 定石コマンドの登録方法:  
RMS にオーナー管理者権限でログイン後、[装置メニュー]-[定石コマンド設定]を選択。「定石コマンドのメニューのアップロード」で上記ファイルを指定。



RMC 上の装置種別は、“ip8800”（RMC で set target-type ip8800 を実行）となります。

## 6. インシデント発生条件と配信条件の設定

装置の種別として“IP8800”を選択した場合、コンソールメッセージの内容により、重要度別の「インシデント発生条件」と「配信条件」（通知レベル）の設定が可能になります。

設定操作は Cisco 装置と同様ですが、IP8800 装置を監視対象とする場合は、コンソールメッセージ中に含まれる文字列を以下のように RMS の重要度条件と対応させて管理します。下記の対応表にしたがって、重要度の設定を行ってください。

コンソールメッセージ	RMS の管理する重要度
EMERGENCY	0
ALERT	1
CRITICAL	2
ERROR	3
WARNING	4
NOTICE	5
INFO	6
DEBUG	7

## 1.3 IP8800 プラグイン Version3.0 における制限事項

### RMS の制限時効

#### 1. トポロジーマップ表示

RMS IP8800 プラグイン Version3.0 では、IP8800 装置に対するルーティング情報の自動取得によるトポロジーマップ表示機能をサポートしていません。（「一般機器」と同様の扱いとなります）

#### 2. アンインストール

プラグインのみのアンインストールは行えません。

## 2. IP8800 プラグインのインストール／アップグレード

IP8800 プラグイン機能を利用する際は、以下の手順に従ってインストール／アップグレードを行ってください。

### 2.1 IP8800 プラグインのインストール／アップグレード

#### 1. RMS の動作環境

プラグイン機能の利用には、RMS Version3.0 以上が必要とされます。それ以前のバージョンの RMS をご利用の場合は、「RMS インストールガイド」の記述にしたがって、RMS のアップグレードを行ってください。

#### 2. IP8800 プラグインのインストール／アップグレード

以降のインストール／アップグレード作業は、必要なファイルを IP8800 プラグイン用 CD-ROM から特定のディレクトリにコピーし、root 権限で実行してください。

##### ① root でのログイン

##### ② RMS の停止

インストール／アップグレード作業は、下記のコマンドにより RMS を停止してから行います。

```
/etc/init.d/rms stop
```

##### ③ プラグインのインストール／アップグレード

以下のコマンドを実行し、IP8800 プラグインパッケージをインストールします。(下記コマンドは、インストール／アップグレードされるファイルがカレントディレクトリに存在することを前提に記述しています。)

```
rpm -ivh rms-plugin- ip8800 - <バージョン>.i386.rpm
```

なお、アップグレードの際は、以下のコマンドを実行してください。

```
rpm -Uvh rms-plugin- ip8800 -<バージョン>.i386.rpm
```

##### ④ インストール／アップグレードの確認

プラグインが正常にインストール／アップグレードされていることを確認するため、以下のコマンドを実行します。

```
rpm -q rms-plugin- ip8800
```

正常にインストール／アップグレードされている場合は、下記の内容が表示されます。

```
rms-plugin- ip8800 -<バージョン>
```

##### ⑤ RMS の再起動

以下のコマンドを実行し、RMS を再起動します。

```
/etc/init.d/rms start
```

## 2.2 インストールの確認

RMS の再起動後、プラグインが正常にインストールされたことを確認してください。  
Web ブラウザから RMS 管理者の権限で RMS にログインし、「RMS 全体の設定」を参照します。  
プラグインが正常にインストールされた場合、ライセンス情報の“インストール済みプラグイン”  
に IP8800 の表示が追加されます。

## 3. 監視対象装置とRMCのセットアップ

RMS IP8800 プラグインを利用される場合は、監視対象とされる装置及びRMCに以下のような動作環境と設定が必要とされます。また、IP8800の各装置とRMCは、RMCに同梱のプラグ変換コネクタ（黒色のコネクタ）で接続してください。

### 3.1 IP8800 装置のセットアップ

RMSの監視対象とするIP8800の各装置に対して、以下に例を示すように、コンソールに出力するメッセージの内容を設定する必要があります。

```
; logging console notifications
; logging console warnings shell
; logging cnslout
```

### 3.2 RMCのセットアップ

IP8800装置を接続するRMCは、下記の動作環境と設定が必要です。

#### 1. RMCの動作環境

プラグイン機能の利用には、RMCソフトウェア Version2.1以上が必要とされます。使用されているRMCのソフトウェアバージョンをご確認の上、必要な場合には、RMCソフトウェアのバージョンアップを行ってください。

#### 2. IP8800対応のセットアップ

RMSプラグイン機能をご利用いただく場合は、RMCにIP8800用カスタムフィルタ・スクリプトのセットアップを行う必要があります。

最新のIP8800用フィルタ／スクリプト（デフォルト設定ファイル）は、ルートレックのホームページからダウンロードしてご利用いただけます。ファイルのダウンロード後、以下の手順により、RMCのセットアップを行ってください。

##### ① フィルタ／スクリプトの設定

copy terminal running-config を実行し、上記フィルタ・スクリプトファイルの内容をコピー＆ペーストします。RMCにIP8800用フィルタとスクリプトのデフォルト値が設定されます。

フィルタとスクリプトの定義は、任意に変更することが可能です。設定内容の確認と変更は、set/show target-filter もしくは set/show target-script コマンドによって行います。詳細に関しては、「RMC MP200/MP1200 ユーザーズ・ガイド」、「RMC クイックリファレンス」をご参照ください。



## ② IP8800 接続ポートの設定

IP8800 シリーズを接続する各 COM ポートに対して下記のコマンドを実行し、必要な情報を設定します。

設定の手順および使用コマンドは、Cisco 製品を接続される場合と同様です。各コマンドの機能と設定情報に関しては、「RMC クイックリファレンス」をご参照ください。

set port comN

set flowcontrol software

set target-type ip8800

←装置の種別を“IP8800”に設定

set target-login-name admin

←装置にログインするためのユーザ名を設定

(例 : root)

set target-login-password <パスワード>

←装置へのログインパスワードを設定

set target-enable-password <パスワード>

←装置の特権パスワードを設定

set target-check

←装置の生存確認の設定

set network-info-time

←ネットワーク情報送信時刻の設定

set connect-log

←装置の操作ログを記録

set spy comN tf10 ml0

←comN に適用されるフィルタとスクリプトを指定

write memory

←設定内容の保存

# 製品に関するサポートのご案内

---

製品に関するお問い合わせやテクニカルサポートについては、下記の弊社サポートページをご覧ください。

<http://www.routrek.co.jp/support/>

また、製品に関する最新情報やマニュアルも上記ページからダウンロードすることができますのでご参照ください。

Copyright©2003 株式会社 ルートレック・ネットワークス All rights reserved.  
このマニュアルの著作権は、株式会社 ルートレック・ネットワークスが所有しています。  
このマニュアルの一部または全部を無断で使用、あるいは複製することはできません。  
このマニュアルの内容は、予告なく変更されることがあります。

Copyright©2003 株式会社 ルートレック・ネットワークス All rights reserved.  
RouteMagic Server の著作権は、株式会社 ルートレック・ネットワークスが所有しています。  
このソフトウェアの一部または全部を無断で使用、あるいは複製することはできません。  
このソフトウェアは、使用許諾契約書に記載されている以外の使用はできません。  
このソフトウェアの仕様は、予告無く変更されることがあります。

商標について

ルートレック・ネットワークスのロゴおよびRouteMagic は、株式会社 ルートレック・ネットワークスの登録商標です。

本書に記載されている製品名等の固有名詞は、各社の商標または登録商標です。



株式会社ルートレック・ネットワークス  
〒213-0011 神奈川県川崎市高津区久本3-5-7 ニッセイ新溝ノロビル  
Tel. 044-829-4361 Fax. 044-829-4362